

ったシンガポール向けは120トン、4121万円だった。

15年産は約1万9000トンの生産量の見込みで14年産より少なくなるが、JA帯広かわにし青果部は「安定した販売をするためには海外の需要に応え、3000トンの輸出を目指したい」としている。

「十勝川西長いも」は帯広かわにし、めむろ、中札内村、あしよろ、うらほろ、新得町、十勝清水町、十勝高島の8JAで生産。輸出は台湾向けに1999年産から、米国へは07年産から始まり、12年産が過去最高の3090トン、9億2268万円を記録した。

ベトナムへ本格農業指導

2016年1月30日

高収益栽培法を伝授 北海道ホープランド



ベトナムの現地法人ホープランドベトナムの農場。
十勝の技術導入を進めている

【幕別】国際協力機構（JICA）は、大規模農業を展開する北海道ホープランド（幕別町、妹尾英美代表）などをつくる「北海道ホープランドベトナム交流協議会」（同、同）のベトナム農業支援活動を草の根技術協力事業に採択した。同社はこれまでもベトナムで農業を指導してきたが、JICAの支援を受けて活動を本格化させ、十勝の農業技術を普及させる。

同事業は十勝管内ではこれまで帯広商工会議所のタイ・マレーシア中小企業振興プロジェクトなど7件が採

択されているが、開発途上国への国際協力活動をする「支援型」と呼ばれるタイプは初めて。

採択は今年12日付で、ベトナムのラムドン省ドゥクチオン郡の農業従事者への技術指導による人材育成を目的とする。相手国との調整を経て事業開始となり、1年9カ月の期間で事業費1000万円で行う。

同協議会は北海道ホープランドと、グループ会社の生産者連合デコボン（千葉県）と横山農場（池田町）で構成する。昔ながらの農法で農民の所得が低く、残留農薬の問題もあるベトナムで、日本の高収益栽培方法や安全・安心の管理方法を伝える。十勝側から現地を訪れる他、現地の農業者4人を1年間、十勝に招いて指導する計画を立てている。

妹尾代表（71）は約20年間、ベトナムで農業支援をしており、2012年には現地法人ホープランドベトナムを設立。「JICA事業になったことで、もっと支援しやすくなる。同じ農民としてベトナムの農民と共に発展したい」とし、横山農場の横山将一さん（32）は「ベトナムの現地に行ったことがあり、農業を支援し地域発展に貢献したいと思った」と話す。